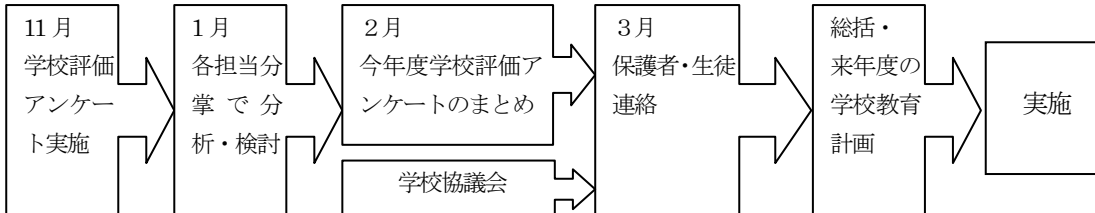


平成27年度 学校評価アンケート（学校教育自己診断）回答のまとめ

学校評価アンケート実施スケジュール



生徒回答集計

回答数183 (提出率50.0%)

A: 肯定的回答(よくあてはまる・ややあてはまる) (数値は%)

B: 否定的回答(あまりあてはまらない・まったくあてはまらない) (数値は%)

前年度比較・・・(肯定的-否定的) 10%↑、20%↑↑、-10%↓、-20%↓↓

検討・・・コメントを掲載している分掌等

	設問	A	B	比較	検討
1	入学前、本校について十分調べて受験した。	38	62		
2	受験は、自分の意志で決めた。	72	28	↑	
3	学校に行くのは楽しい。	57	43	↓	1
4	学校のコース選択や単位取得、選択科目、履修などのガイダンスはわかりやすい。	62	38		3
5	学校の授業は、プリントスライド、映像等の補助教材を使うなどの工夫をしている。	72	28	↑	教、情、各教科
6	学校の授業の内容についていける。	72	28	↑	教、各教科
7	学校の授業はわかりやすい。	75	25	↑↑	教、各教科
8	学校の授業中は、落ち着いて学習できる。	64	36	↑	生、1、各教科
9	ゼロ時間目の授業を知っている。	68	32		
10	土曜講座を知っている。	52	48		
11	ゼロ時間目の授業を受けてみたいと思う。	23	77	↓↓	情
12	土曜講座を受けてみたいと思う。	19	81	↓	教
13	生徒の興味や関心、進路希望に応じて選べる選択科目がある。	59	41	↑	教、情
14	学校は、奨学金制度についてきちんと説明している。	74	26	↑↑	進
15	ホームルームなどで、自分の将来について考える機会がある。	73	27	↑↑	進2,3,4
16	学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。	77	23	↑	進、3,4
17	体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行っている。	62	38	↓	生
18	ホームルーム活動(金4時限目)は必要だと思う。	63	37		1,2,4
19	外部(学校外)の講師による講演会は有意義だと思う。	48	52	↓↓	
20	学校生活についての先生の指導については理解できる。	77	23	↑	生
21	命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。	67	33	↓	人
22	学校内で地震や火災が起こったとき、どのような行動をすればよいかわ知らされている。	71	29	↓	進
23	学校の部活動は必要だと思う。	70	30		生
24	担任の先生以外にも職員室、保健室等で気軽に相談することができる先生がいる。	58	42	↓	相
25	教室や体育館、食堂などの設備は学校生活を送りやすいように整備されている。	75	25		
26	教室以外にも自分の居場所がある。	63	37	↓	
27	自分は、あいさつをするようになった。	67	33		生、1

保護者回答集計

回答数 51 (提出率 14%)

A: 肯定的回答(よくあてはまる・ややあてはまる) (数値は%)

B: 否定的回答(あまりあてはまらない・まったくあてはまらない) (数値は%)

前年度比較・・・(肯定的-否定的) 10%↑、20%↑↑、-10%↓、-20%↓↓ 検討・・・コメントを掲載している分掌等

	設 問	A	B	比較	検討
1	入学前、本校について十分調べ受験させた。	67	33		
2	受験は、本人の意志で決めた。	94	6		
3	学校に行くのは楽しいようだ。	75	25	↑↑	1
4	学校は、コース選択や単位取得、選択科目、履修などについてわかりやすく伝えている。	82	18		3
5	学校は、単位制としての教育方針をわかりやすく伝えている。	82	18		
6	学校の授業はわかりやすいようだ。	75	25		各教科
7	学校の授業中は、落ち着いて学習できるようだ。	75	25	↑	1、各教科
8	ゼロ時限目の授業を知っている。	76	24		教
9	土曜講座を知っている。	47	53		教
10	生徒の興味や関心、進路希望に応じて選べる選択科目がある。	59	41	↓	
11	担任その他の教員に相談しやすい。	82	18	↑	2,4
12	学校の様子をホームページ、寝屋定メール、懇談や配布プリントなどによって知ることができる。	70	30		3,4、情
13	学校の授業参観や体育祭、文化祭等に参加してみたい。	49	51	↓	生、P
14	学校は、奨学金制度についてきちんと説明している。	84	16	↑	進
15	学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている。	76	24		進、3,4
16	学校の生徒指導の方針は、理解できる。	84	16		生
17	学校給食(17時50分～18時05分)を食べさせたいと思う。	39	61		
18	学校は命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会を作っている。	70	30		人
19	学校は、災害時の対応や防災や防犯等の生徒の安全確保について伝えている。	58	42	↓↓	進
20	保護者同士の交流があったらいいと思う。	37	63	↑	
21	学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。	88	12	↑↑	1,2,4
22	本校に通学することで日常生活により影響を与えているようだ。	80	20	↑	
23	子どもは、以前と比べるとあいさつをするようになった。	75	25		生、1

評価結果を受けての各分掌等での検討事項(抜粋)**教務部**

(生 6・7) 肯定的回答増加。今年度は、「授業見学週間」「授業改善のための研修会」「授業のシェア」などを実施し、教科の枠を超えて個々の授業力向上に向けて、学校全体で取り組んできた結果である。

(生 5) 肯定的回答が増加。ICT機器の活用や視覚的教材を取り入れ、工夫された授業が各教科で昨年度以上に多く実施されている。1月に「ICTを用いた模擬授業(授業のシェア)」を実施し、効果的な授業方法についての職員研修会を実施した。今後のさらなる成果に期待したい。

(生 11・12、保 8・9) 肯定的回答少数。ゼロ時限目や土曜講座については、仕事等と両立している生徒は受講が困難であるため、例年通りやむを得ない結果となっている。来年度新入生に配布する「学校生活のしおり」には案内を載せ、合格者説明会時から案内するなどの周知方法の改善をしていきたい。

生徒指導部

(生 27、保 23) 肯定的回答生徒 67%は目標 60%を上回った。登下校指導を含めて教員サイドから意識して挨拶を行った結果である。

(生 8、保 7) 肯定的回答増加。授業中の雰囲気は近年落ち着いてきていて、問題行動等はほとんど起きていない。課題となっている携帯電話の指導についても次年度に整備していく予定である。

(生 17、保 13) 行事に関する肯定的回答が変わらず、否定的回答が増加している。「わからない」回答が否定に流れた可能性がある。実情としては行事で来校する保護者の人数は増加していて、内容を充実させるために明月祭については次年度 2 日間開催にする予定で調整中である。

(生 20、保 16) 学校の指導について、生徒・保護者ともに高い水準で理解を示している。担任を中心に生徒に寄り添い、家庭と連絡を密にしている成果と考える。

(生 23) 部活動加入者が年々増加傾向にあり、今年度は卓球部が全国大会(東京)に出場するなど活躍している。

進路保健部

(生 14、保 14) 肯定的回答増加。生徒向けの奨学金説明会を 2 回開催した結果である。

(生 15) 肯定的回答増加。進路ホームルーム(4 回)や、進路ガイダンス(2 回)を計画的に実施した結果である。

(生 16、保 15) 肯定的回答増加。総合的な学習の時間「進路セミナー」、放課後や夏季休業等を活用した「就職ガイダンス」、「就職ゼミ」、「進学ガイダンス」を実施した結果である。

(生 22、保 19) 肯定的回答は前年と変化なし。「わからない」回答が否定的回答に変わっている可能性がある。災害発生時の避難行動については、年2回の避難訓練を主にしているが、これ以外にHR等での指導、ホームページ等での情報発信が必要ということかもしれない。

国語科

(生 7・8) 肯定的回答増加。1・2年生の国語総合で、授業開始時に毎回「はちかづき漢字検定」(漢字の読みを学習する教材)に取り組んでいる。基本的な漢字の読みを繰り返し学習した結果である。

(保 6) 肯定的回答増加。肯定的回答が7割5分を占めている。第1学年の国語総合において、少人数展開を実施し、丁寧な指導を行ってきた成果ではないかと考えられる。

社会科

「アジアのこぼと文化」、「国際理解」の科目は本校独自の設定科目であり、生徒の興味にあわせた授業を作り上げている。「アジアのこぼと文化」では、自分の身の回りのことを発展させて、アジアの言語や政治・経済・社会・文化を学習し、近隣諸国への理解を深めた。「国際理解」では、最新の国際関係や国際問題について、新聞等を通じて多面的に理解する授業にした。その結果、生徒は関心をもって授業に参加している。

数学科

(生 6・7・8、保 6・7) 全体的に肯定的意見が増加している。数学という教科の性質上、一度つまずいたらその後の授業がなかなかついていけない。その問題点を解消するために、今年度から第一学年数学Iの授業ではTT形式の授業を行った。生徒のつまずきを早期発見することができ、生徒からも、わかりやすいという声が多々あがっている。また、授業規律についての指導も合わせて行うことができ、落ち着いた授業環境となっている。来年度もTT形式の授業をつづけていきたいと考えている。

理科

(生 6・7・8、保 6・7) 肯定的回答増加。高等学校までで学習する内容を踏まえながら高等学校の内容に繋げていけるよう、教科内での共通認識をもつよう話し合った。今後も継続して教科内での話し合いが必要である。

保健体育科

(生 5・6・7) 肯定的解答増加。ICTの活用や具体物などの視覚教材を積極的に取り入れた結果であると感じている。また、同時展開の授業(第1学年体育、第4学年体育(男子))についてはTT形式の授業を行い、生徒1人1人のニーズに応じて教科指導を行うことができたと感じている。

(生 8・保 7) 肯定的解答増加。今年度から第1学年の女子体育の授業について、2クラス同時展開の授業を2人の教員が担当した(昨年度は1人で担当)。そうすることで、授業規律について徹底ができ、落ち着いた授業環境となっている。また遅刻者や見学者に対して、1人1人に応じた、きめ細かい指導を行うことができた。

芸術科

(生 5・6・7・8) 肯定的回答増加⇒ 教材や指導形態の工夫を行った成果であると考えられる

(保 7) 肯定的回答増加⇒ 教材や指導形態の工夫を行った成果であると考えられる。

英語科

(生 7・8) 生徒の肯定的評価が増えている。英語科でも新しく加わった教員をガイダンスするにあたって本校生徒の特徴を理解してもらい、それにあった授業内容になるように4月当初より、またT-NETの授業の打ち合わせなどを利用して会議を重ねてきた。新しい先生方の授業方法も多く生徒にとってわかりやすいということもあったと思う。

家庭科

(生 5・7、保 6) 肯定的回答多数。毎回授業で視聴覚教材や実物などを活用し、目で見てわかる授業を意識した結果である。

情報科

(生 5) 肯定的回答増加。実習、座学ともに様々な教材を使用し、最新の情報を授業に取り入れている。

(生 11・13) 今後も引き続き、「日本語ワープロ検定試験(日検)」など就職先で活用できるコンピュータ関連の資格修得につながるような実技指導を授業や補習等で行う。

第1学年

(生 3・保 3) 本校に入学する生徒の中には、今まであまり学校に行くことができていない生徒も多い。今年度の第一学年では、少しでも多くの生徒を登校させ、学校が楽しいと思ってもらうために、登下校時や休憩時間、授業中など、少しでも多く生徒と関わるということを続けてきた。その結果、肯定的意見が増加している。

(生 8・保 7) 生徒が落ち着いて学習できる環境をつくりたいという思いから、第一学年では、教員が授業がない時間に見回りをし、必要があれば教室に入り込んで指導するというのを一年間続けてきた。その結果、肯定的意見が増加している。また、携帯等を触っている生徒も例年より非常に少なく、手ごたえを感じているが、来年度は授業中の携帯使用率をゼロにするために、生徒指導部と連携をとり、指導を行ってきたい。

(生 18) 新年度が始まる前にHR計画を立て、有意義なHRを行うために様々な工夫を行ってきた。その結果、肯定的意見が増加している。

(保 21) 第一学年のときから保護者と関係をつくるということは非常に重要である。今年度も細かいことでも必ず家庭と連携をとり、

協力して生徒の指導にあたってきた。保護者の方からも、丁寧に指導してもらって嬉しいという声が何度もあがっている。その結果、肯定的意見が増加している。

(生 27・保 23)1年間、登下校時に門に立ち、生徒を迎え入れて挨拶をし、積極的にコミュニケーションをとり続けた。

第2学年

(生 15・18) 肯定的回答増加 HR等で配布するプリントや、パワーポイントの使用について学年で話し合うことでより良い教材を提示することができた結果と思われる。

(保 11・21) 肯定的回答増加 今後さらに保護者等と連携をとり、否定的回答を減少させる必要があると考える。

第3学年

(生 15・16、保 15) 肯定的意見増加。昨年度よりも卒業学年の担任団と進路保健部との連携がとれており、進路 HR等を計画的に行った結果であるといえる。

(保 12) 肯定的意見増加。学年通信だけでなく、保護者通信も定期的に発行することにより、学校行事や考査日程等を保護者に伝達した結果であるといえる。今後は保護者通信を学校HPに掲載するなどの工夫を検討したい。

(生 4・保 4) 肯定的意見・否定的意見のどちらも増加している。HR等を利用して、進級・卒業に向けての単位取得のシステムや履修などについて生徒にわかりやすく説明する機会をもっと設けても良いのではないかと。

第4学年

(生 15・16) 今年度、進路保健と協力をして、進路 HRを充実した結果だと感じている。来年度以降は、卒業学年だけでなく、他学年でも就職や進学の情報伝える機会が今年度以上にあっても良いと思う。

(生 18) 肯定的回答が増えているのは良いが、否定的回答も増えている。来年度は、否定的回答を減らせるように、HRの年間計画を立てて毎回のHRを充実させ生徒に必要だと感じさせるようにする。

(保 11・12・15・21) 年2回の保護者懇談だけでなく、進学や就職、卒業指導の際には保護者連絡を行い、できる限り学校の情報を伝えるようにしている。その結果が肯定的回答増に繋がったと感じている。

PTA 定時制委員会

(保 13) では、否定的回答が多いが、下表にあるように、前年度に比べ保護者の参加が大幅に増加しており、保護者の関心が学校に向き始めている。特に、体育祭、文化祭(明月祭)では、年々保護者の参加が増えており、生徒が学校行事で生き生きと活躍している姿を保護者をご覧になり、生徒の成長を確信していることと思う。また、保護者の見学が生徒の励みにもなっており、行事内容の充実につながり、生徒だけでなく保護者も楽しみとする行事になりつつある。生徒会行事において、PTA 定時制委員会が催し物を企画することで、保護者が学校に関心を向ける機会にしたいと考えている。

	体育祭	文化祭	授業参観	保護者交流会
平成 26 年度	64 名	96 名	6 名	3 名
平成 27 年度	73 名	136 名	4 名	5 名

人権教育推進委員会

(生 21) 否定的回答増加、

(保 18) 肯定的回答増加・否定的回答増加

今年度は全学年生徒対象の人権講演会を開催することができなかった。その影響もあると考えられる。次年度は、開催できるように検討中である。

教育相談委員会

(生 24) スクールカウンセラーなど相談できる場をクラス掲示用のポスターや担任を通じて生徒に周知した結果、昨年度に比べてスクールカウンセラーへの生徒相談件数は増え、それが肯定的回答の増えている一つの理由だと考えている。

また、否定的回答も昨年度より増えていることから、教育相談委員会として生徒が相談できる場をもっと提供できるように来年度は改善する必要がある。

情報処理委員会

(生 5) ICT機器を活用した授業の実施を希望する教員が増えてきている。情報機器の管理を行い、授業での活用方法については、個別にガイダンスを行っている。

(生 5) ICT機器活用のための教職員向け校内研修会を1月に実施した。ICT機器を活用した授業をする教員がかなり増加しているため、本校教員がICTを用いた模範授業を行い、教員全体にシェアできた。

(生 5) 今年度は書画カメラを購入することができた。今後もICT機器の増備に努めていきたい。

(保 12) 本校HPの更新を適宜行い、内容を充実させることができた。今後もHPによる情報発信を充実させる。